

学校だより

東京都立北特別支援学校

令和7年 3月25日発行

最終号

校長 小池 巳世

今年度最後の「学校だより」となりました。19日に高等部卒業式、21日に中学部卒業式、24日には小学部卒業式が行われ計43名が立派に卒業証書を受け取り、4月からの新しい生活に向けた節目を過ぎました。卒業式には必ず「式辞」といって校長から卒業生を中心に参列している人に向けての挨拶、話があります。今年度の高等部卒業式での「式辞」の一部を載せます。

『・・・北特別支援学校での学校生活は終わりますが、卒業した後も皆さんの成長は続きます。4月から環境が変わることに不安があるかもしれませんが、新しい生活へのチャレンジは、自分の可能性を広げるチャンスでもあります。覚えていないかもしれませんが、皆さんは小学部、中学部、高等部に入学する時も大きな不安を抱えていたと思いますが、それを乗り越え多くのことを学んで楽しい学校生活にしてきました。自信をもって4月からの新しい生活で、少しずつ環境や関わる人になれ、焦らず自分の速さで過ごしていき、充実した生活を送ってください。

今、時代は障害のある人もない人も全ての人がお互いの違いやできること、できないことを認め合い、自分らしく活躍できる社会を作っていく方向に進んでいます。皆さんも、これから生活する中で様々な人と関わり、自分のやりたいことを伝え、手伝ってほしいことを相談していきましょう。また、他の人がどのようなことを考え、自分に伝えようとしているのかも受け止めていきましょう。そのことが、自分の希望を実現させることにつながるとともに、全ての人にとって暮らしやすい社会をつくることになるのです。・・・』

北特別支援学校での5回の高等部卒業式とその前にいた知的障害のある生徒が通う特別支援学校でも、この前後や言葉の違いはありますが、伝えたことはこのような内容でした。私が特別支援学校に就職して、関わった児童・生徒や保護者の方、職場の上司や同僚など様々な方と出会う中で、成長させてもらったという思いが強くなります。社会人の先輩としての卒業生へのアドバイスと、関わってくださった方々への感謝の気持ちを式辞に入れていきます。

さて、4月から都立水元小合学園に異動することになりました。卒業生に「新しい生活へのチャレンジは、自分の可能性を広げるチャンス」と伝えてきた手前、私も頑張らなければと言いつけています。本校に着任した時は新型コロナウイルス感染症対応の真只中でしたが、当時から今日に至るまで保護者の皆様や地域・関係機関の方々には本校の教育活動を支えていただき、心から感謝申し上げます。5年間、ありがとうございました。また、神田副校長もこの3月をもって転任しますので、挨拶を載せさせていただきます。

令和5年4月に着任し、2年間お世話になりました。スクールバスの駐車場で、登校する児童・生徒の皆さんを初めて出迎えた日のことや、保護者の方と一緒に60周年記念イベントに参加したことなど、たくさんの思い出ができた2年間であると同時に、管理職としての第一歩が北特別支援学校であったことを光栄に感じています。今回の異動で学校を離れることになりましたが、またどこかで皆さんにお会いできることを楽しみにしています。最後になりますが、学校を支えていただきました保護者の皆様、地域や関係機関の皆様に心から感謝申し上げます。

副校長 神田 実季